化学物質製造・取扱事業者のための

必 見

【化学物質管理者講習】開催のご案内

労働安全衛生規則等の一部を改正する省令により改正された労働安全規則、第１２条の５第１項及び第３項第２号イの規定によりリスクアセスメント対象物を製造または、取り扱う事業所においては

１　厚生労働大臣が定める **化学物質の管理に関する講習** を修了した者

２　これと同等以上の能力を有すると認められる者

のうちから化学物質管理者を選任し、その者に当該事業所における **化学物質の管理に係る技術的事項を管理** させなければならないこととされました。

化学物質のスペシャリストより、化学物質管理者となられる方に、実際にパソコンを使いリスクアセスメントツール「クリエイトシンプル」の実習を含めた充実した内容で分かりやすく説明いたします。＊使用するパソコンは当協会で準備しております（１台/２名 にて利用）

日　時：令和５年１１月１６日(木)　１７日(金)

１６日(木)　８：50 ～ 17：00

１７日(金)　８：50 ～ 17：00

場　所：宮城労働基準協会４階 会議室

講　師：東京からお招きする化学物質の第一人者

（労働衛生コンサルタント・使用する化学物質管理者テキストの執筆メンバー）

お申込みは、宮城労働基準協会ホームページ「講習のご案内」サイトから Web 申込予約！

＜化学物質管理者の職務は？＞

１　化学物質の製造や取扱い、譲渡・提供する化学物質のラベル(表示)及び SDS(安全データシート）の確認に関すること

２　化学物質に係るリスクアセスメントの実施の管理、リスクアセスメント結果に基づく低減措置の実施管理

３　化学物質のばく露管理値が設定される物質のばく露の程度の低減措置、健康診断の実施等の措置

《 職場で使用される一般的な化学物質には、以下のようなものがあります 》

- 酸化剤　：　過酸化水素、塩素、硝酸、過マンガン酸カリウム
- 還元剤　：　亜硫酸塩、硫化水素、アルミニウム粉末
- 溶 剤　：　アセトン、トルエン、キシレン、エタノール
- 有機溶剤：　ベンゼン、トルエン、キシレン、クロロホルム
- 金 属　：　鉄、アルミニウム、銅
- 酸　　：　硫酸、塩酸、酢酸
- 塩 基　：　水酸化ナトリウム、水酸化カリウム
- 漂白剤　：　酸化剤(塩素系・酸素系）　還元剤
- 洗浄剤　：　酸性・アルカリ性のもの　　etc.

（リスクアセスメントの対象となる物質を製造し、又は取り扱う事業場は業種・規模問わず、化学物質管理者の選任が義務となります）

職場の化学物質を把握･管理して、働く人の健康管理、労働災害防止に努めましょう！

- 化学物質管理者講習 今後の開催予定（定員 80 名）＊web による受講予約(宮城労働基準協会 HP より)

① 令和６年１月 25 日㈭ 26 日㈮

② 令和６年２月 13 日㈫ 14 日㈬

③ 令和６年３月 18 日㈪ 19 日㈫

医師や専門講師による講義を予定

取扱事業場の化学物質管理者も専門的知識を習得して適切に職務を遂行することが大切です！

化学物質管理者に対する講習については、厚生労働省告示によって、製造事業場 12 時間、取扱事業場 6 時間の教育内容が示されていますが、**業種・規模を問わず、取扱事業場で選任する化学物質管理者にはリスクアセスメントを実施することをはじめ、その職務を適切に遂行するための専門的知識が必要**となります。

そこで、宮城労働基準協会では、取扱事業場を含めて化学物質管理者に選任される方々がその職務を適切に遂行するために必要な知識やスキルを習得し、実際の職務に活かしていただける講習環境を実現するため、専門家にご協力いただき、受講料にも配慮しながら化学物質管理者講習(２日間コース(12 時間) 製造事業場・取扱事業場向け)を実施することといたしました。

会員の皆さまには、この化学物質管理者講習の開催案内をご覧いただき、業種・規模を問わず、リスクアセスメント対象物の取扱事業場に該当する場合には、是非、この講習を受講し、専門的な知識を持った化学物質管理者を選任し、化学物質による労働災害防止に努めていただくようお願い申し上げます。

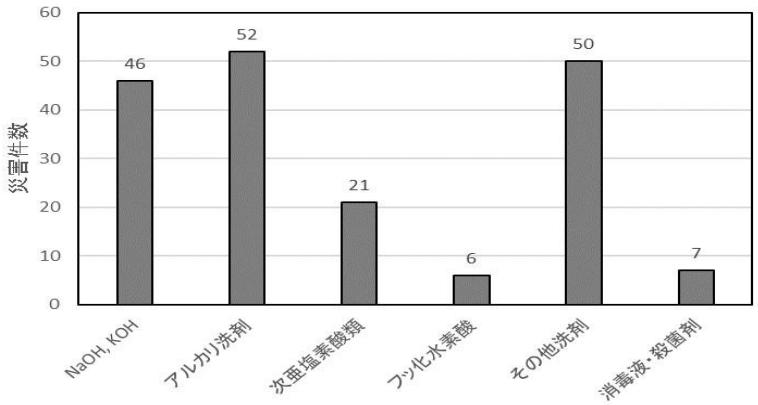

図3-2 洗剤等に起因する災害

※以下、参考資料
洗浄剤に起因する災害(令和元年)

1　有害物による災害 445 件のうち 182 件は、酸・アルカリ等の洗剤と洗浄や殺菌に使用するものに起因
2　洗浄に使用する水酸化ナトリウムや水酸化カリウム溶液と強アルカリの洗剤への接触による災害事例が全体の約半数
3　アルカリとの接触では休業期間が長い傾向アルカリ洗剤の使用業種は食品製造業と飲食業、商業施設内の厨房に偏っており、油やタンパク汚れの清掃時に災害が発生

事業場の労働者数と災害発生の割合

労働者数(人)	事故の型	
	爆発･火災･破裂	有害物との接触
500 以上	2.8 %	4.8 %
100～499	9.6 %	23.3 %
50～99	6.7 %	12.0 %
30～49	10.1 %	13.3 %
10～29	41.0 %	26.2 %
1～9	29.8 %	20.4 %
計	100 %	100 %